

## 長野県

信州大学  
教育学部附属  
長野小学校

●生徒数:466名

# 子どもたちが我先に集まってくる 小学校。「あいさつ運動」で 人間関係づくりの初歩を学ぶ。

### 《学校紹介》

前身は明治6年開校。  
昭和26年より信州大学教育学部附属長野小学校と改称。  
児童の全人的な成長発展を促すことが教育方針となっている。

### 【あいさつ運動概要】

- ◎主体: 児童会
- ◎形態: 児童会の担当が  
昇降口付近を中心に実施
- ◎頻度: 一週間/月

### 【特長】

朝7時20分の開門を前に、同校ではたくさんの児童たちが門の外に集まっています。少しでも早く飼っている動物の世話や、魚とりなどをしたいからです。国立大の教育研究の場でもあることからか、ここでは通常の小学校では考えられない風景があちこちで見られます。子どもたちは皆元気で明るく、副校長先生に飛びつく児童さえいます。



●アルパカと遊ぶ子どもたち

### 【メリット・効果】

- ◎児童間のコミュニケーションが活発になる
- ◎学業を含め、学校生活に興味を抱き自発的に動ける児童が育つ
- ◎自然の営みや、人間関係への理解が深まる

### あいさつ運動も

●昇降口付近であいさつをする児童会メンバー

活発で「人間関係づくりの第一歩」として、取り入れています。一言でいえば、子どもたちが興味をたくさんもてる魅力的な学校。その魅力が子どもたちを引き付け、自発的な行動につながっているのでしょう。

### トピックス

#### 応用力のある 子どもたちを育てる

例えば算数なら普通の学校では計算方法の技術を教えます。しかし、この学校では育てている朝顔の種子を数えるなどしながら、計算することの意味を子どもたちが体感するところから始まります。

「回り道のようにすけれどそうではありません。やがて理解を深める速度が伸びてきます。

特に応用力をみると全国平均の20ポイントほど上です」と、畔上(あせがみ)一康副校長先生。大学の実習生が多く一人ひとりの子どもたちを見守れる体制ができていることもありますが、知識の吸収力が確かに違ってくるようです。



畔上一康 副校長